

2017年7月8日(土) 14:30~17:30

関西大学千里山キャンパス 児島惟謙館1階第1会議室

聴講自由
申込不要

日本の国際関係論および国際法思想の発展にモーゲンソーが果たした役割や限界を、それぞれの分野の専門家に議論していただきます。

大矢根聡氏は、自身が編著である『日本の国際関係論—理論の輸入と独創の間』（勁草書房、2017年）を出版なさったばかりです。その中で、「日本における「モーゲンソーとの対話」—もう一つの高坂・坂本論争」という論文を発表しておられます。

西平等氏は、『関西大学法学論集』65巻6号（2016年3月）、66巻1号（2016年5月）、2号（2016年7月）および4号（2016年11月）に「連盟期の国際秩序構想におけるモーゲンソー：政治的紛争論の意義」を4回に分けて掲載されています。

これらのご研究を踏まえて、国際関係論及び国際法のそれぞれの立場から、最新のモーゲンソー論が展開されます。

報告者 **大矢根 聡** （同志社大学 法学部政治学科教授）

「戦後日本の国際関係論と『モーゲンソーとの対話』
—リアリズムと現実主義との論争？」

西 平等 （関西大学 法学部教授）

「戦間期国際法思想の文脈におけるモーゲンソー理論の位置」

討論者 **初瀬 龍平** （京都女子大学 法学部法学科客員教授）

司 会 **柄谷 利恵子** （関西大学 政策創造学部教授）